

本県における子ども読書活動の現状と展望

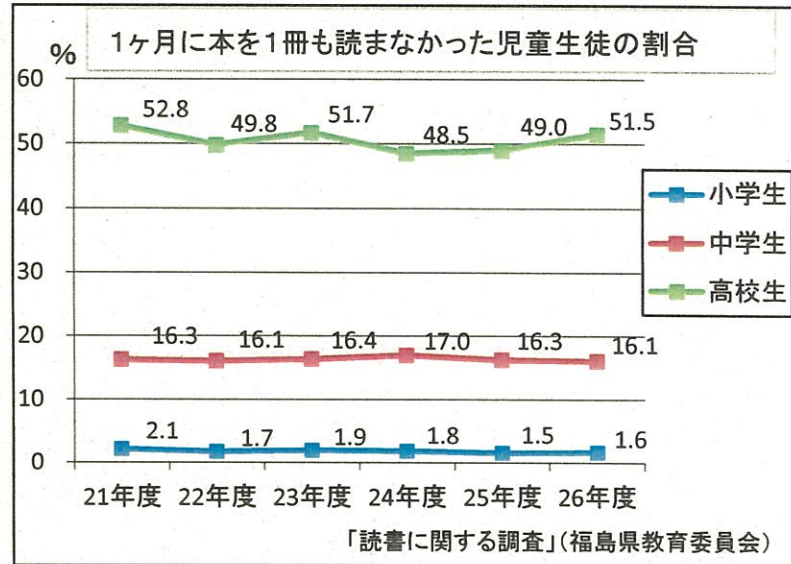
＜読書活動の意義＞

子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの。

＜成果と課題＞「福島県子ども読書活動推進計画」

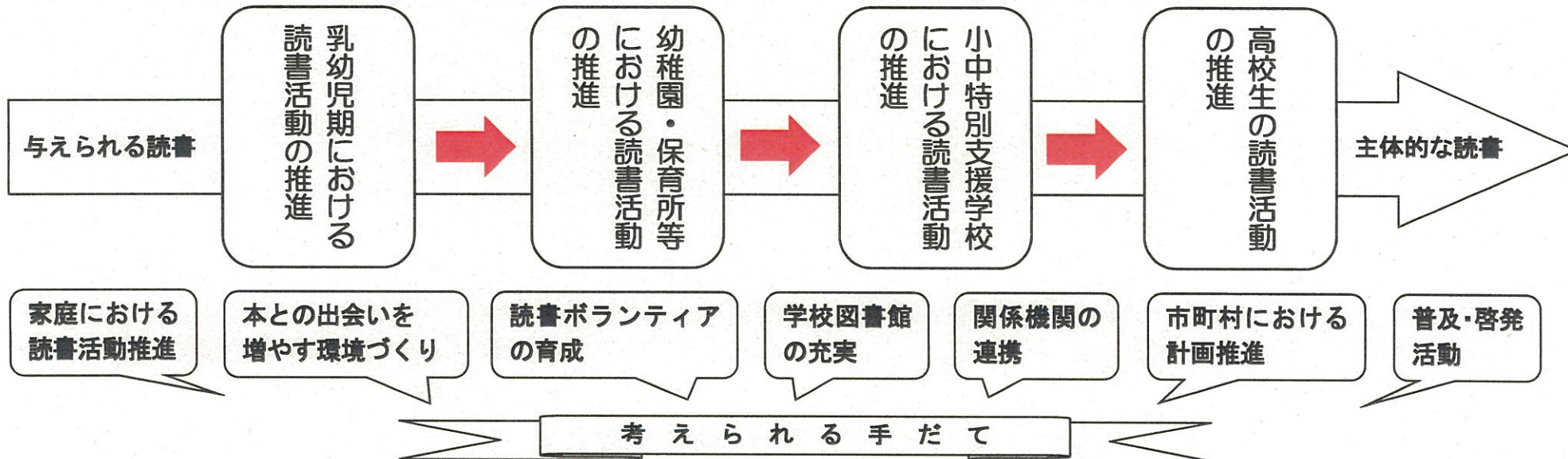
(第一次：平成16年3月、第二次：平成22年3月)

- 学校における多様な読書活動への取組の増加
- ボランティア等による読み聞かせ会の内容の充実
- 市町村における読書活動の推進
- 乳幼児期から本に親しませる機会のさらなる充実
- 中高生の自主的な読書活動の促進
- 読書活動を進めていくための人材の確保と育成、配置



今後の展望 ～ふくしまの未来をひらく読書の力～ (第三次「福島県子ども読書活動推進計画」平成27年2月)

「生涯にわたる望ましい読書習慣の形成」～乳幼児期からの切れ目ない子ども読書活動の推進～



本県における医療の担い手育成について

ふくしま地域医療の担い手育成事業
(H24～27)

事業の必要性

本県の医師不足を受け、医学部進学を希望する高校2年生に対し、最新の医学や地域医療の現状に触れる機会を設定することにより、医学と地域医療に対する関心や医学部受験に向けての学習意欲を高めさせ、県立医科大学を中心とする医学部への進学実現を支援し、県内地域医療に貢献できる人づくりを支援する必要がある。

対象

医学部医学科を志望する県内の高校2年生で以下の3つのセミナーを受講できる生徒、約110名。

① メディカルサポートセミナー

県立医科大学において、チーム医療を始めとした最新の医療や地域医療についての講義・演習等を行うとともに、県内出身の現役医科大学生とのディスカッション等による交流を通して、医学部受験に向けた学習意欲を高めさせる。

② 地域医療体験セミナー

県内4地区の医療機関において、地域医療の現場に触れる機会を設け、地域医療に貢献する使命感の涵養を図る。

③ 放射線医学セミナー

放射線医学総合研究所(千葉県)における放射線医学に関する講義や実験等を通して、放射線医学に対する理解を深め本県の復興を支える人づくりを支援する。



課題

- ①本県の医療人材不足は、医師だけでなく看護師を始めとするコメディカルスタッフも同様である。
- ②子どもたちが、医療に関わる様々な職業について触れる機会が少ない。
- ③医療の仕事に就くためには、より早い段階からの決意準備、対策が必要である。



医療人育成についての今後の方向性

方向性

将来、医療の仕事に携わり、本県の復興及び社会に貢献したいと願う子どもたちの夢の実現に向け、中学生段階においては、医療関係の様々な仕事の紹介や体験を通して、医療に関する知見を広め、将来就きたい職種の実現を図るとともに、高校生段階においては、地域医療現場の視察や体験を通して、職種・進学先の決定及び合格に向けた学習意欲の醸成を図り、本県の地域医療に貢献できる人づくりを支援する必要がある。

医療人としてふくしまの未来を担う夢の実現(地域医療に貢献できる人材の育成)

(一部新)大学等における先進医学や看護の体験実習

医師及び看護師志望の高校生に対して、大学の医学部及び看護学校等において、最新の医学や地域医療についての講義・講演、実習、医学部学生とのディスカッション等を行い、受験に向けた学習意欲を喚起するとともに、本県の地域医療に貢献できる人づくりを支援する。

- (1) 福島県の医療の現状に関する講義
- (2) 先進基礎医学及び看護学についての講義
- (3) 体験実習
- (4) 上級学校進学に向けた中央講師による講義・演習
- (5) 学生を交えたディスカッション 等

高校二年生

(一部新)地域医療体験

医師及び看護師を始めとするコメディカルスタッフを進路希望とする高校生に対して、地域の医療機関において地域医療の現場に触れる機会を設け、各職種の仕事内容の理解と地域医療に貢献する使命感の涵養を図る。

地域の病院において

- (1) 院長等による地域医療の現状等についての講演
- (2) 地域医療の現場見学
- (3) 医師、看護師、理学療法士または作業療法士等による講話 等

高校一年生

(新)医療体験イベント

医師や看護師、薬剤師等の医療に関わる様々な職業についての講話や体験を通して、医療に対する興味・関心を高め、職業意識の醸成を図る。

- 医師、看護師、薬剤師、医療機器メーカー等スタッフ、大学教授等による
- (1) 模擬講義
 - (2) 医療に関わるワークショップ 等

中学生